

非正規化する大学教育研究の現場

—非正規雇用アンケートから見えるもの—

近年、大学職場で働く有期雇用教職員が急増する状況の下で、専任教職員と有期雇用教職員の職務分担や職場での役割などをめぐって、さまざまな問題が生じています。

こうした問題状況を踏まえて、高等教育研究会は非正規雇用教職員および非常勤講師の雇用・労働実態を把握するとともに、大学における雇用政策の転換を求めるために、昨年8月「非正規雇用問題プロジェクト」を発足させました。

本プロジェクトでは、現在の日本における労働法制のさらなる「規制緩和」が検討されている状況などを踏まえつつ、大学職場における「合理化」はどこまで進んでいるのか、専任教職員と有期雇用教職員の職場における役割分担をめぐってどのような問題が起きているのかなどに関心を持ちました。それらは大学の規模や職域によって異なった状況があると同時に、学生の学ぶ環境にも大きな影響を及ぼしていると考えられます。

私たちは、こうした有期雇用教職員をめぐる問題を多角的に検討するために、有期雇用教職員および非常勤講師を対象にしたアンケート調査を行ない、978名の非正規雇用教職員並びに非常勤講師の方々から回答が寄せられ、日頃どのような思いで仕事に取り組まれているのか、貴重な証言をいただきました。

本シンポジウムでは、アンケート調査の特徴や傾向などを報告するとともに、大学のみならず教育現場での非正規雇用の急速な拡大が何をもたらしているのか明らかにし、今後の取り組みに向けた課題などについて議論を深めたいと考えています。

◆日時：2014年10月4日(土) 14時～17時

◆場所：池坊学園洗心館 6階 第1会議室

参加費
無料

◆基調報告：大学における非正規雇用問題 —大学の「ブラック化」は何をもたらすのか—

林 克明氏 (ジャーナリスト／「ブラック大学早稲田」著者)

林克明氏プロフィール

1960年長野県生まれ。業界誌記者を経て1989年より週刊誌記者として働く。1995年から1年10ヶ月、モスクワに住みチェチェン戦争を取材。環境問題をはじめ、社会問題を主なテーマとする。2001年「ジャーナリストの誕生」で、第9回週刊金曜日ルポルタージュ大賞受賞。著書に「ブラック大学 早稲田」(同時代社)、『カフカスの小さな国チェチェン独立運動始末』(小学館 ノンフィクション大賞優秀賞)、写真集『チェチェン 屈せざる人々』(岩波書店)など。



◆特別報告：中高の教育現場における非正規雇用の現状と課題

西明和彦氏 (京都教職員組合臨時教員対策部)

◆非正規雇用問題プロジェクト「雇用・労働実態調査アンケート」の分析報告について

●非正規雇用教員、非常勤講師に関する報告

長澤高明氏 (関西圏大学非常勤講師組合)

●非正規雇用職員に関する報告

安東正玄氏 (立命館大学／京滋私大教連書記次長)

コーディネーター：碓井敏正 (非正規雇用問題プロジェクト事務局長)



本件に関するお問い合わせ先

〒602-8469 京都市上京区中筋通浄福寺西入311
高等教育研究会事務局 (担当：佐々江)
TEL：075-415-0962 FAX：075-415-1093
email：shes@ha.bekkoame.ne.jp

◆主催：高等教育研究会、京滋地区私立大学教職員組合連合